2025 年 2 月 13 日

小田急電鉄株式会社

ＩＲ室

2025 年 3 月期　第 3 四半期決算に関するＦＡＱ

※　ここでは、当決算について想定される質問と回答を参考として掲載しています。ご不明点等ございましたら、ＩＲ室（03-3349-2526）までお問い合わせください。

Q1. 主な事業の足元の状況は。

当社鉄道事業	改札通過人員【1 月 1 日～29 日】 定期、定期外とも前年度並みで推移 ※　前年度同日比
小田急百貨店	売上高【1 月 1 日～29 日】 新宿店、町田店、ふじさわ 各店とも前年度並みで推移 ※　前年度同日比
シティホテル	客室稼働率【1 月 1 日～29 日】 ホテルセンチュリーサザンタワー　86.1%
箱根エリア	箱根湯本駅改札通過人員【1 月 26 日～2 月 1 日】 平日 118%程度、土休日 116%程度で推移 ※　前年度同週比
	箱根リゾートホテルの客室稼働率【1 月 1 日～29 日】 50～60%程度で推移 ※　箱根リゾートホテル：山のホテル、箱根ハイランドホテル、はつはな

Q2. 小田急電鉄 鉄道事業におけるホームドア設置の進捗状況は。

・　バリアフリー料金制度を活用し、2032 年度までに新宿から本厚木までの全駅と中央林間、大和、藤沢への設置を進める。

・　それ以外の駅についても、転落事故の発生状況、視覚障害者の利用状況や整備要望、ホームの混雑状況等を踏まえ、整備の必要性を検討していく。

（参考）ホームドア整備計画

時期	2025 年 1 月末(実績)	2024 年度末 (計画)	2032 年度末 (計画)
箇所	14 駅 40 番線	14 駅 44 番線	37 駅 107 番線
	新宿（特急ホーム除く）、 代々木八幡、代々木上原、 東北沢、下北沢、世田谷代田、 梅ヶ丘、登戸、町田、 相模大野、海老名※、本厚木、 中央林間、大和※	海老名※、大和※	左記以外の新宿～本厚木 全駅、 藤沢

※ 一部ホーム

Q3. 各ホテルの客室稼働率・外国人宿泊者比率は。

客室稼働率 （単位：%）		2023 年度 第 3 四半期	2024 年度 第 3 四半期	増減
新宿	ホテルセンチュリーサザンタワー	88.6	89.9	+1.3p
箱根	山のホテル	73.9	74.9	+1.0p
	箱根ハイランドホテル	67.8	66.2	△1.6p
	はつはな	59.9	67.5	+7.6p
	箱根ゆとわ	79.1	84.0	+4.9p
御殿場	HOTEL CLAD	70.2	79.6	+9.4p

外国人宿泊者比率 （単位：%）		2023 年度 第 3 四半期	2024 年度 第 3 四半期	増減
新宿	ホテルセンチュリーサザンタワー	82.5	88.3	+5.8p
箱根	山のホテル	20.3	25.4	+5.1p
	箱根ハイランドホテル	14.2	16.7	+2.5p
	はつはな	19.1	24.6	+5.5p
	箱根ゆとわ	53.3	54.4	+1.1p
御殿場	HOTEL CLAD	50.0	60.9	+10.9p

Q4. 各ホテルの 2 月以降の予約状況は。

〈シティホテル〉

- 客室稼働率は、2 月、3 月ともに 90%程度を想定している。
- 客室単価は、1 月および 2 月が閑散期に当たるため一時低下するものの、3 月以降は 2024 年度第 3 四半期と同程度以上の高水準で推移することが見込まれる。

〈箱根リゾートホテル※〉

- 客室稼働率は、2 月で 50～60%程度、3 月で 70～80%程度と想定している。
- 客室単価は、1 月および 2 月が閑散期に当たるため一時低下するものの、3 月以降はインバウンド利用比率の高いホテルを中心に、2024 年度第 3 四半期と同程度の高水準で推移することが見込まれる。

※　箱根リゾートホテル：山のホテル、箱根ハイランドホテル、はつはな

Q5. 観光需要（特にインバウンド）の状況と取込施策は。

・ コロナ禍からの回復期を脱し拡大期に入っているインバウンド市場の動向を注視しながら、目標設定や観光戦略について検討を進めている。

・ 企画券の販売においては、当社の多言語ホームページや公式 SNS のリニューアル、海外 OTA（インターネット上のみで取引を行う旅行会社）との連携等を推進し、旺盛なインバウンド需要を取り込んでいく。

・ 当社グループの交通サービスと箱根エリアのホテルをセットにしたパッケージ商品の販売強化に加え、新たにインバウンド向け着地型ツアーの販売を予定しており、顧客単価の向上を図っていく。

【箱根エリア】

〈現状〉

・ 2024 年度第 3 四半期の箱根フリーパスの販売枚数は、過去最高であった 2018 年度比△9.1%にとどまっているものの、前期比+6.5%であり、増加傾向を維持している。

・ 特に、外国人向け販売枚数は 2018 年度比+30.1%であり、過去最高を更新した。

箱根フリーパス （単位：千枚）	販売枚数		
		うち外国人	割合
2018 年度第 3 四半期	***718***	208	29.0%
2023 年度第 3 四半期	613	225	36.7%
2024 年度第 3 四半期	653	***271***	***41.5%***

※ **太字**：過去最高

・ 観光船やロープウェイにおける外国人団体の 2024 年 12 月実績は、2018 年度比+20%である。特にアジア圏やアメリカが好調となっている。

・ ホテルについても、インバウンド需要を着実に取り込み、客室単価も上昇している（Q3・Q4 参照）。

〈今後の施策〉

・ 各施設のリニューアルにより、箱根エリア全体の魅力を高め、集客力を強化していく。

	施設名称	竣工・開業予定	投資額
①	元箱根港構内 海賊船「ビクトリー」特別船室	2025 年 3 月～4 月下旬	合計 5 億円程度
②	箱根ロープウェイ大涌谷駅 1 階 駅前広場「谷のテラス大涌谷」		
③	RETONA HAKONE※(リトナ ハコネ)	2025 年 12 月	―

※ 旧「箱根レイクホテル」を全面リノベーション

（参考）ニュースリリース

① 元箱根港と海賊船「ビクトリー」特別船室のリニューアルに着手 (2024/12/2)

② 大涌谷駅と「谷のテラス大涌谷（駅前広場）」のリニューアル工事を実施 (2024/11/26)

③ 2025 年 12 月、「RETONA HAKONE」開業 (2024/11/15)

Q6. 百貨店業の状況は。

・ グループ通算制度の適用に伴い、決算期を変更し 2024 年度第 3 四半期は 10 ヵ月間（2024 年 3 月～12 月）を連結したことに加え、食品・化粧品・ラグジュアリーの売上が前年を上回ったことやインバウンド需要（免税）が寄与したことなどにより、増収となった。

営業収益 （単位：百万円）	2024 年度 第 3 四半期	対前期
新宿店	10,854	+29.2%
店頭	10,400	+28.1%
町田店	7,531	+16.2%
ふじさわ	1,720	+22.3%
その他	1,472	+8.3%
合計	21,579	+22.2%

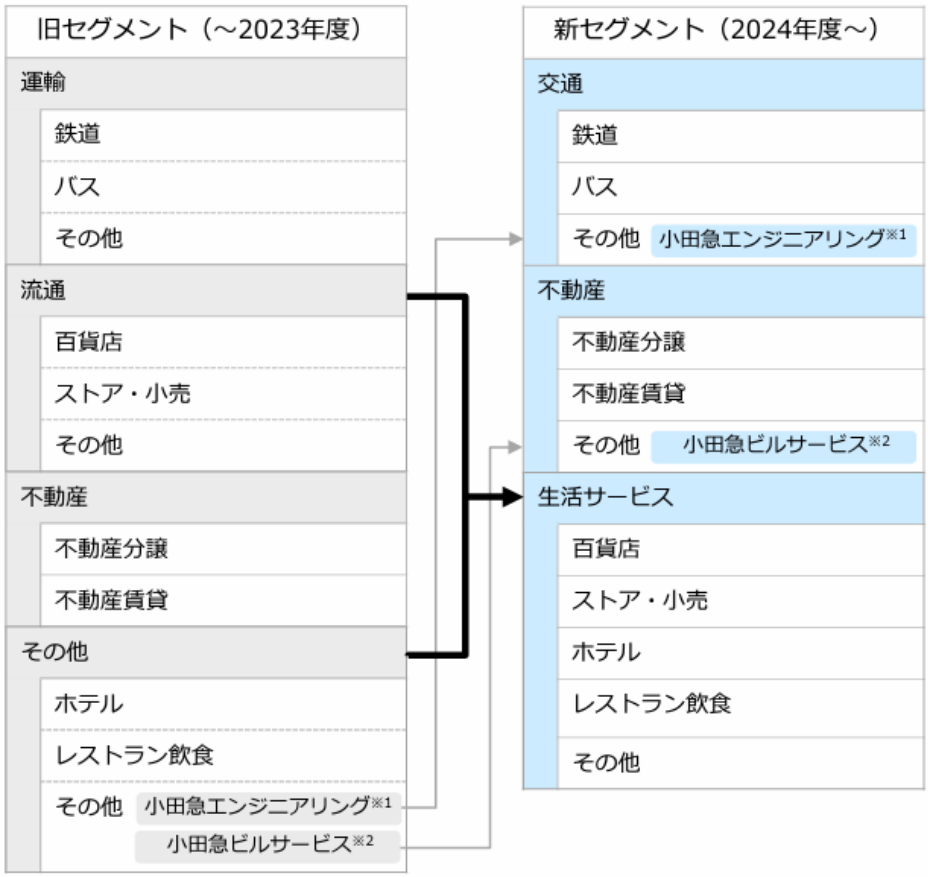
※ 前期：2023 年 3 月～11 月

・ なお、決算期変更の影響を考慮し 10 ヵ月間（3 月～12 月）で比較した取扱高は、前期比+2.1%となった。

Q7. セグメント変更の内容は。【再掲】

- 経営ビジョンにおける連結財務目標を踏まえ、2024 年度期首よりセグメントを変更した（名称含む）。
- 旧セグメントの「流通」「その他」を「生活サービス」に統合したほか、一部連結子会社のセグメントを見直した。
- 公表資料では 2023 年度の実績を変更後のセグメントに組み替えている。

（参考）セグメント変更の概要図

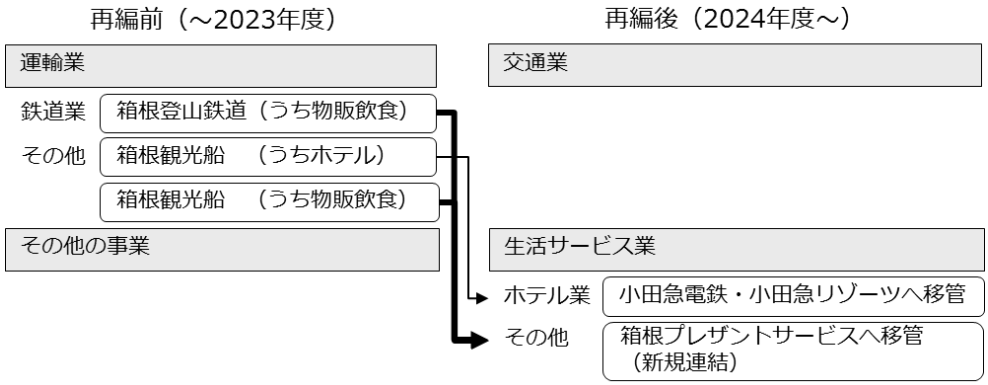


※1 鉄道メンテナンス業　※2 ビル管理・メンテナンス業

Q8. 箱根グループ各社の再編はどのようなものか。業績に与える影響は。【再掲】

- 箱根エリアにおいて登山電車やロープウェイ・観光船等の交通業や観光施設等を運営する小田急箱根グループは、2024 年 4 月 1 日付で組織再編（合併・事業分割）を実施した。
- これに伴い、箱根プレザントサービスを新規連結したほか、一部事業のセグメントを移管している。
- 本再編を契機に、効率的かつコンパクトな経営体制の構築を目指して組織・コストの最適化を進めるほか、創出された人的・財務的余力を箱根エリアの魅力向上施策等へ的確に投下していくことで、グループ業績の持続的な成長・拡大を図っていく。

（参考 1）再編に伴う事業移管



（参考 2）2024/1/24　小田急箱根ニュースリリース

小田急箱根グループの組織再編に関するお知らせ

注意事項

本資料に記載されている、計画、見通し、戦略のうち、歴史的事実でないものは、将来の見通しであり、これらは公表時点で入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいています。

したがって、実際の業績は経済情勢等の変化によって業績見通しとは異なる可能性があります。

以　上